

基幹共同研究「常民生活誌に関する総合的研究」 便所の歴史・民俗に関する総合的研究

期間：2019年～

〔所員〕 須崎文代 泉水英計 内田青蔵

便所と糞尿処理の生活誌による人間生活の再考を目指して

須崎 文代

人間生活の根幹に関わる便所と糞尿の扱いは、国内外の生活文化のなかでさまざまな風習や思想に根差している。基幹共同研究「便所の歴史・民俗に関する総合的研究」ではこうした地域特有の便所空間や糞尿処理、あるいは衛生観や穢れの思想について検討し、人間生活の変容の一側面を明らかにすることを目的とし、2019年度より調査研究活動を推進してきた。とくに「便所」と糞尿の扱いの歴史と民俗に関して、歴史学、民俗学、建築学からの視点を中心として、総合的に調査研究を行い、生活誌の基幹を構築しようとするものである。

2019～2020年度は、研究活動の基盤を構築するべく研究課題と関連領域における研究動向の把握を主な目的とした。とくに活動の中心となったのは公開研究会の開催である。便所と糞尿に関わる学術研究の専門家にご発表いただき、領域横断的に意見交換を行い、知見を束ねることを目指した。具体的な公開研究会の内容は以下の通りである。

第1回 飯島吉晴氏（元天理大学教授）

「厠と厠神をめぐる民俗学的研究の課題」2019年7月18日（木）

第2回 川田順造氏（神奈川大学日本常民文化研究所 客員研究員）

「便所の異文化間比較アフリカ・日本・フランス」2019年12月20日（金）

第3回 木下正史氏（東京学芸大学名誉教授 奈良文化財研究所 名誉研究員）

「古代のトイレを発掘する」2020年1月16日（木）

第4回 全京秀氏（ソウル大学名誉教授 神奈川大学日本常民文化研究所 客員研究員）

「暮らしの中の糞——1930年代男鹿農村に関する生態人類学的考察——」

（※COVID-19感染拡大防止のため延期、2021年11月に開催予定）

第5回 周星氏（神奈川大学日本常民文化研究所 所員）

「現代中国のトイレ革命について」2020年12月16日（水）

第6回 堀充宏氏（葛飾区郷土と天文の博物館 学芸員）

「東京近郊農村における下肥利用とトイレの改良」2021年3月24日（水）

さらに2021年度は、佐々木長生氏（神奈川大学日本常民文化研究所 客員研究員・元福島県立博物館 専門学芸員）による「会津農書にみる便所の構築と民俗——『会津農書』を中心に——」（2021年8月28日）が予定されている。



写真1 『飢鬼草紙』に描かれた排せつの様子（国会図書館デジタルコレクション）

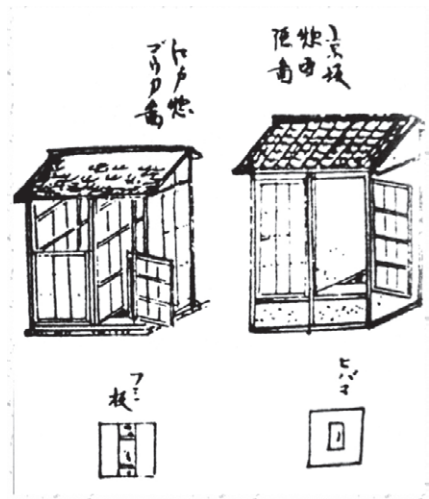


図1 『守貞漫稿』に描かれた江戸時代の廁（1810）



写真2 研究会での川田順造氏と会場の様子（第2回研究会）

上記のほか、文献資料の収集および現存遺構の現地調査を並行して進めている。対象としては、沖縄県中頭郡 中村家住宅の「ふる（豚便所）」（重要文化財、2019年度視察）や京都府京都市 東福寺東司（重要文化財）等をはじめとする、全国に存在する遺構である。2020年度はCOVID-19感染拡大防止のため現地調査を行うことができなかったが、今後は継続的に実施していく計画である。



写真3 重要文化財中村家住宅の「ふる」(豚便所) (須崎文代撮影)

■ 2020年度の活動

- 第5回公開研究会「現代中国のトイレ革命について」周星（所員） 2020年12月16日 オンライン開催（第122回研究会共催）
- 第6回公開研究会「東京近郊農村における下肥利用とトイレの改良」堀充宏（葛飾区郷土と天文の博物館） 2021年3月24日 オンライン開催